

共立女子大学コレクション

共立の伝統

— 染織品の学術模造 —

平成23年4月11日(月)～5月21日(土) 休館日：日曜・祝祭日



萌黄幸菱固綾単
(原品) 室町時代・15世紀
熊野速玉大社



支倉常長立姿衣裳
(原画) 支倉常長像
江戸時代・17世紀
仙台市博物館



徳川家康所用・花重模様小袖
(原品) 桃山時代・16世紀
徳川美術館蔵



正倉院宝物・襪
(原品) 奈良時代・8世紀
宮内庁

共立女子大学
神田一ツ橋キャンパス 本館1階展示室

東京都千代田区一ツ橋2-2-1 TEL03-3237-2425

- ・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線
「神保町」駅下車A8出口から徒歩1分
- ・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車1b出口から徒歩3分

共立の伝統

～ 染織品の学術模造～

創立以来、すでに百二十年を超えた本学には、長年にわたって収集されてきた日本の服飾美術品やその他の工芸美術品が多数収蔵されています。文化財というべきこれらは、長らく教育資料として学生の教育に幅広く活用されてきたほか、本学における展示や美術館・博物館への貸与によって、社会教育的役割をも果たしてきました。しかし、本学にはこれら以外にも、教員の研究成果を直接本学の教育に反映し、またこれを社会に還元することを目的として制作された学術模造作品が少なからず所蔵されています。

これらは、歴代被服学科教員によって行なわれてきた染織文化財の学術的調査・研究と、本学科で長く受け継いできた和裁を中心とする伝統的染織技術を用いて制作されたもので、模造作品の制作を通じて当時の技法を復元するという学術的意図を持っています。現存する作品が皆無である古墳時代の服飾については、埴輪と考古学的研究成果を参考に当時の衣服を復元し、また奈良時代以降、近世に至る服飾品に関しては、実作品の調査を中心に、これに美術史的研究成果を加味しつつ、縫製技法や加飾技法の詳細な考証を経て模造を行なっています。これらは、共立女子職業学校以来の和裁ほかの伝統技法の継承とその研究が、史的学問領域に大きく寄与した事例として特筆されるものであり、現在では「文化財保存事業」の三本柱として常識となっている「文化財の保存・修復・学術模造」の一翼を担うものといえるでしょう。

本企画展では、正倉院宝物以下、平安時代や南北朝時代の古神宝、桃山時代や江戸時代の小袖などを中心に展示いたしますが、いずれもほぼ初めてのお披露目となります。「共立の伝統」をご覧ください。



破陣楽接腰
(原品) 奈良時代・8世紀
宮内庁



伝安徳天皇産着
(原品) 平安時代・12世紀
巖島神社



白縹子地熨斗菊模様振袖
(原品) 江戸時代・17世紀
東京国立博物館